THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治十九年九月十五日

定價金四錢

女學雜誌

第三十六號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

●〔女學叢誌〕芝居見物の風儀を改むべし●〔中外新報〕數件●〔學藝一斑〕理學一斑●〔對譯〕英和羅馬字の對譯●〔列女傳〕尼松月の傳●〔雜記〕婦人の選擧權○毛髮の事○西洋禮式一斑○反古睩●〔新作物語〕巣守の妻第六回（春のや主人稿）●〔家政要報〕家事會計の心得○鷄卵貯蓄法○相場●〔御伽草〕鑒定ハ違はず○おもだかとくわゐと○數學問題●〔寄書〕歌舞伎の起源○婦智を進むるの策○詩歌

◎女學叢誌

芝居見物の風儀を改むべし

近ごろ演劇の改良ハ世上の一問題となりて現に演劇改良會も起りたる程なるがその創設ありてより以來いまだ多くの日數をも經ざるとなれば改良會の見込といふハ果して如何にあるべきや余輩の知ることを得ざれども演劇改良の事ハこれを新聞紙上に議し著書ヨ論じてろの説もまた樣々なり余輩もこの改良の企をば疾くに賛成するところにして既に本誌上に於て聊の論じたるがごとく（本誌第三十三號の女學叢誌を參看あるべし）その改良とハ從來の脚色を改正して新たに文學美術の旨に協ひたる好脚本を作り出さんとの見込なるべしと考へさらば事の序に野蠻封建時代の遺物なる腦中の道徳をも改良するの道具となり社會進化の助けともならんことを望みさるからにハ演劇の一方のみ改良することハいと難き業あればこれを見物するもの〻趣味をも改良せずんばあらずと論じたりしが今聞くところに據れば事の信僞ハ知らざれども改良會員の中にても新たに脚本を作り出さんとハいと難き業なれば容易く改良のなし得らる〻限りを改良し從來の脚本中不都合なる廉々を修正してたゞ劇場をばなるべく西洋風に改築せんといふ説をなすもの多數ありといふ余輩もまた尤もなる考案とこそハ思ふなれ何となれば前にもいひたるがごとく演劇のみの改良をなしたればとて之を見物するもの〻趣味に改良せざる限りハ如何に名士の寄集りなればとて改良會も到底眞正の改良を行ふと能ハざるの道理なればなり（此事ハ本誌第三十號の雜記欄内に於ても聊の論じたり）扨て斯く演劇の改良も容易く行はる〻限りを改良して止んとならば之が見物者もまた腦裏までの改良をなさずとも同く容易く行ひ得らる〻限りハ改良せずんばあらざるなり何事に就ても余輩の常にいふ改良とハ多くハ我々の心もて新たに考へ出して改良するといふにハあらずして既に歐米といへる文明の教師あれば取りも直さずこれを眞似るとに外ならずさりとて眞似にもまた雖きと易きとの二つありて他の思ふと考ふるとを眞似んとする

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は至つて六かしき事なれども他の爲すことを見聞して眞似るとはいと易かるべし改良會の見込といふも亦この易き方を取り劇場のみはなるべく西洋風になさましとの意なるべしさらば余輩が見物者に望むところの改良も亦此易き方即ち外面の改良にて芝居見物の行儀作法などを改良し文明國の人々が爲せるごとくその眞似をなさんといふにあるなれば如何に改良を好まざるものたりとも斯ばかりの改良は最早今日にありては左まで爲し得られざるほどのことにもあらざるべし總て社會公衆の寄集るところにては相互に社會に對するの徳義を重んずること文明國の習ひなり劇場のごときもまた所謂「見え」の場所たるが故に苟にも紳士淑女たらんものは言語動止を謹み禮節を守るべきこと固よりの事なるに我が邦芝居見物の有樣を見るに衣服の裾を引卷りて人の頭をも行厨の上をも選ばずして跨ぎ歩き卷舌となるまでに醉つぶれ四邊の妨害をも顧りみず聲高に談話をなし役者はいまだ舞臺に上らざるに四方より「ター、〱」（成田屋とか音羽屋とかいふ意ならんがさは聞えず怒れるにや賞贊るにや解し難し）と叫び立て衣飾りたる婦人の頭より茶瓶火鉢を覆へす無禮なる男あれば人の辨當を履みかへして顏赤らむる婦人もあり棧舗の四邊には酒肴の器物菓物の皮など堆きまでに散ばひて世によく譬へていふ豚小屋にもや比ふべき實に名狀すべからざるの不体裁といはざるを得ずこれを外國人に見せたらんには肝腎の演技よりも見物者の有樣をこそ一層興ある觀物なりと思ふめいと面伏なる次第ならずや如何に劇場を西洋風になしたればとて見物者にして斯る有樣にてあらん限りは折角の改良もその詮なかるべしさらば今より見物者の風習を改先衣服も可成正式のものを用ひ浴衣三尺帶あるひは前掛の儘にて場内に入るべからず又棧舗にありては觀劇中は素より幕間といへども聲高なる談話をなさず止むを得ずば耳に口よせ聲を縮めて隣席の人に聞えざらんことを勉めゆめ〱烟草燻らすがごとき業あるべからず況てその他の飲物食物をや總て一擧一動に心を用ひ場中靜かにして且つ肅かならんことを勉むべし之紳士淑女たるものゝ守るべき文明國の禮節にて社會に對するの徳義なり斯くありてこそ劇場改良の功も顯はれ遂には文明國の仲間にも入るを得べけれ其を偶の慰晴しにこそ行きても見め思ふが儘ならぬ窮屈を忍びて何の慰みとなるべきなどいはん人々は彼の下駄洗ひとかいへるにぞ行き給ひね常に女學叢誌讀み給へる貴婦人淑女達と交らひて芝居見る事かは

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎中外新報

○賞牌　英國女皇陛下ハボムベイ(英領印度)の醫學校に於て卒業したる婦人の醫學生の中學力優等のものに賞牌を與へさせ賜ふよしまた故ドファリン伯爵夫人の賞勵資金とて同夫人の遺言より死後の財産を以て婦人の教育を盛んよせんが爲め諸學科の婦人學生を賞勵するの資金あり近頃この資金の中央委員ハ英領印度のカルコッタ、マドラス、ボムベイ、ボンジャブ等の各大學校に於て毎年行ふ競爭試驗及第者に金牌を與ふべき見込なりといひまた印度病院の附屬醫學校にて銀牌を得たる婦人五人ありとクヰーン新聞に出たり

○華族女學校　ハ去る十一日より秋季の授業をはじめらるる筈のところいまだ殘暑も去らざるが爲め尚ほ引つゞき來る三十日まで休業し來月一日より授業をはじめらるゝ由

○外國に於ての加藤孃　英國女皇新聞に同孃の事を記したるを見るに年若き日本の一貴女加藤キン孃といへるハマサチユーセッツ州の師範學校に入學せしめんが爲め日本の文部省よりサレムに留學を命せられたるよしなるが是まで私費あるひハ他の官省より海外に留學せしめたる婦人なきにハあらざれども同省より公然海外に留學を命せられたる婦人ハ加藤孃が初めなり同孃ハ東京女子師範學校を卒業し英語をも解し且つ謹直なる女生なり同校ハ昨年まで皇后宮の親しく統理し給ひて文部省の管するところにてハあらざりしさて日本政府にてハ加藤孃が歸國せし後ハ婦人教員の長となすべき見込なりといふとありたり

○貴婦人の贈與品　前號に日下長崎縣知事の夫人その他廿餘名の婦人がたより先達て淸國水兵が暴行したる際に負傷したる警官および人民に毛布を送られたる由鎭西日報より抄出して記載せしが今また同新聞の報ずるところに據れば右の貴婦人達ハ尚ほまた彼の時に死亡せし巡査福本森兩氏の遺族へ香典として金十圓づゝに書狀を添へて贈與せられまた負傷者の中目下自宅にて治療中の警部補松崎惟氏外十三名へも同く書面を添へてミルク二個菓子一箱づゝを贈られたるよし

○倫敦大學校入學の婦人　ジョンス孃およびローランツ孃といへる二婦人ハ北ウエールスなる大學豫備校の生徒なりしが今度倫敦大學校の入學試驗に及第したるもの〻中學力最も優等なりしといふ

○婦人教育通信會　瑞西國ツリーチ府なる大學校中の婦人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

俱樂部にては屢々會議を開きて婦人の高等教育を進むるが爲め歐米各國に通信局を設くる事を議決せりその通信の箇條は各地大學校入學試驗の摸樣また在校中諸入費暮向の方法等その他學事に關する事等にして婦人は何人たりとも入會する事を得るよしにて右の通信を得んと欲するものは同國ツリーチのテチンゲース十七番館にて博言學生カルヴィン婦人および同地フロントルンにて醫學生ロスロープ婦人に申込むべしとのことなり

○訓盲唖院　にては先月三十一日までに三十名の生徒を募る筈ありしが右期日までに申込たるもの十五名にて內七名は寄宿を願ひ出たるよし時事新報に見ゆ

○クレヴランド孃　米國大統領の妹に當らるゝ同孃は新聞記者とならるゝ由是まで十八箇月間は大統領の官宅白院にありて同館の榮譽主婦たりしが今は大統領の新迎ありしより同館に用なき人となられたるがゆゑ既に華盛敦を發しチカゴに赴むかれたり同地にて文學世事といふ新聞の記者とならるゝなりと佛國の新聞に出たるを舍友より報じ越されたり

○レヴット婦人　目下京阪地方を遊說せらるゝ米國禁酒會の同婦人は本月中に再び橫濱に戾らるゝ都合のよしなるが同地方にても婦人の說を賛し會員たらんことを望むもの餘ほど出來しよし日々新聞に見えたり

○安南の王母　テムプスといへる新聞の通信者が報じたりとて或る佛國人が安南の王母に見えたる摸樣を英國婦人雜誌に載せたるを見るに王母の御齡は七十七になり給ひ且つ盲目なるが國中に威權あることは國王といへどもその命に背く事能はざるほどなりさて或る佛國人とはポールベルトといへる人にてその夫人と十二人の從者とを伴ひ王宮の門に入らんとするとき樂隊は門外の兩側にありて佛國の樂を奏したり門外の守兵は皆男子なりしが門內には男子とては一人もなく守兵は老婆にていと珍らしき衣服を着し銀造りの短劍を帶び歐洲人を見ることを欲せざるにや面を背けて壁の方に向ひゐたり夫より進み行き螺堂（一度入るときは出べき道を失ふべきやう故意と廻轉して造りたる古き建築あり）を經て大理石を敷きつめていと美はしき宮殿にぞ達したる殿內には老幼うち交り思ひ〳〵の衣服着たる五六十人の婦人ありて手に涼傘と小旗とを持てるもありまたは笛を吹き鞨皷を打つもありこの女樂隊に誘はれて細長くして小暗き所に至りたるに此所ぞ卽ち謁見所なるとて國王も出給ひ容顏麗はしく見えさせたれども談話な

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

どもなく履を脱て御簾の垂れたる前に至りて平伏し給へり聽てすこしばかり御簾を捲きたるにぞ王母は黄色なる服を着て椅子に倚り給ひ間もなく再度び御簾を垂れたれども國王は倘ほ前に平伏し給ひ通詞に目くばせして謁者どもは皆近寄りて平伏すべしと報じ玉へりさて國王は何事をか言上し王母も又簾内より何事をか答へ玉ひさりこれぞ謁見式の畢りなりき

○高等女學校　は一ツ橋外の高等範師學校体操場に移轉せしが來る二十日頃より開業のよし時事新報に見えたり

◎學藝一斑

○理學一斑(第三十四號の續き)

理學上の觀察は極めて精密なると充分ならん事を要するものにて識らず知らず粗漏に流れたる推測は決てあるべからざることを要するなり

實驗とは殊更らに天然物を集合し或は分離するか又は如何なる方法にても天然自然の事情を變ずるなどのことある時ゝ生ずる觀察なるがゆゑに理學上の實驗は精細明了なる人為の有樣を以てなす理學上の觀察なり

氷が氷結するがごときは普通なる觀察の事柄なりさるを如何なる事情によりて斯くは水の形が氷の形と變ずるならんかを確知するを得たる時はこれ即ち理學上の觀察なり

木が水上に浮ぶといふとは最も普通の實驗によりて知らるべし然るを理學上の實驗ゝよりて木の水上に浮ぶ時は自巳の重量を水に移すがゆゑなりと知らるゝなり

理學上の「推論」もまた恰も理學上の觀察が普通の觀察と異り理學上の實驗が普通の實驗と異ると同じく普通の推論と異り精細を勉むべき事にて精細なる觀察をなすことの難きがごとく精細なる推論をなすこともまゝ甚だ難き事なり

理學上推論の總則は多くの事柄を一々觀察して集めたるものなりされば其の總則の定りたるからには總て推論の決定は日日通常の事柄と同じくこの總則に由て定まれり譬へば或る小童が(大理石は堅き物なり)といへばこの小童が大理石を見てろの堅き事を感じ一般ゝ難きものなりとの決定をなして斯くいふなり此法に由て決定をなすを「歸納法(インダクシユン)」といふ若しまたこの小童が齒を以て大理石を壞さんと欲することありとせばこれ卽ち大理石は人の齒を以て壞たには堅過ぎる」といふ總則より反對して「演繹法(デダクシユン)」に由て事を行はんとするものなり

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

尙は委しく推論のことを知らんとするには「論理學」に就て學ぶべし論理學は推論のことを充分に說明する學問なり故に爰にては自然の法則といふは天然物に關したる總則にしてその總則は數多の觀察と實驗とを以て集めたるものなり言を換へていふときは即ち觀察と實驗とより歸納したるものなりといふ事を知るを以て足れりと思ふなりされば理學上の實驗および理論の結果はみなこの總則より演繹したるの結果なり

斯く理學と普通の考へとは人々の想像するごとく相反對したるものにはあらずして理學は即ち完全なる普通の考へなり理學上の推論とはたゞ注意したる普通の推論に外ならず普通の智識は益々精細となり益々完全となりて理學上の智識となることなり

されば理學に入るの道順は必らず普通の智識を經ることにて注意しさる觀察と實驗とを以て普通の智識を擴めざるべからずまた彼の總則即ち自然の定則に於て精細なる研究の結果を知ることは如何になすべきかを學び終には此定則より推論する事を學ばざるべからず而て自然の現象に就き合理の說明を得るに至らば人間世事を指揮するに充分ならん（自然と理學との章は之にて畢りこれより實体物の事に移る）

◎對譯

○泰西諺箴の直譯

（甲）㈠最先の㈡犬（が）㈢兎（を）㈣捕ふ

（乙）㈠性急なる㈡手（は）㈢魚（に）㈣向て㈤蛙（を）㈥捕ふ

（丙）㈠最も高き㈡枝（は）㈢最も安全なる㈣棲架（で）㈤有る㈥無し

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

（甲） The foremost dog catches the hare.

㈠ ㈡ ㈣ ㈢

眞先の 犬が 兎を 取る

（乙） The hasty hand catches frogs for fish.

㈠ ㈡ ㈥ ㈤ ㈣ ㈢

性急な者は 魚を 捕らんとて 蛙を 捕ふ

（丙） The highest branch is not the safest roost.

㈠ ㈡ ㈤ ㈥ ㈢ ㈣

高い 所の 枝に 棲まる は 安全なら ず

KWAIWA (HANASI.)

A. Good morning. — A. O hayō gozaimasu.

B. Good morning, Miss. Clara. — B. O hayō gozaimasu, O Kura San.

A. Have you read Ladies' Journal ? — A. Anata wa Jogaku Sōsi wo goran-nasaimasita ka ?

B. Yes, I did; it is very interesting and amusing. — B. Hai yomimasita, taisōtameni naru omosiroi Zassi de gozaimasu.

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

○尼松月の傳　(前號の續き)

櫟野の文太夫ハ尼に導かれて一室のうちに入りて見るに此處ハ佛間の次にて疊八ひらばかりも敷べく見えて衣筐ひとつ座具など傍に少しあるのみ最と淸ふよて衣桁にハ母の着たりし衣洗ひきよめつと覺しきが懸たり窓の外の方ハ境だに無く遠く山を見わたさるゝに母も今此處にありて見出し居れど我來たるをも知らせ賜ハぬにやあらむ日頃すくやかにハ在すれど耳疎され自らも覺え賜ふ程なりしが斯ばかり强り賜ひしも彼水の騷ぎに驚きて何程か添へるなるべしなど思へば御迎へに參りつと言出るより先に淚さしぐみたるまづ最あはれなり尼も母子が別れたる後の物語のさぞあらむと思遣りてやものも云で佛間の方に退きけり文太夫がそと母の袖を引けば誰かとて見かへるに思ひ懸けぬ我子のつい居たるよ如何して來けるぞといひしかゝ手を取りて嬉し泣になけば文太夫もありし事ども語り出また尼の云々し賜へるによりて御在所のとみに知られつるなりと彼檜板の事をも語れば母も惡漢の手に引あげられて再度流し捨られむとせしを不意も庵主に助けられし始め終りをもの語りつゝ此深き惠みハ人ごとにハよもあらじ御佛のみ手の綱に絶えぬる玉の緒を繫ぎ留たるにこそなどいひつつ暫時ハ淚せきあへず漸々に拭ひをさめてやをら外の方より衣ども運び來て着替へさすめり尼ハ事果たるころ出來りて文太夫に逢ひて母刀自の恙なかりし悅びを述べても全く日ごろ孝心深くよく仕へ賜ふゆゑにこそとて自らの上に懸ても言はぬに母子ハ語さへ無くてたゞ伏拜むばかりなり文太夫ハ返す〳〵尼の惠ゝをかしこミつゝ黃金三百兩を取出て尼のまへにさし置きていへるやう人の生命ハ玉黃金にも替がたけれど然りとて報い參らすべき術も侍らずこハなめしけれど野分の後の修覆料とも見なして受納め賜へかしと云へど尼ハ見もやらず聊にこがねを鏤め柱に玉を飾れる大寺ありとて斯ばかりの修覆料をとみに寄附する人ハ世に多からざるべし此草の庵も露の身の置どころに定めしのみ百年の後に傳へて人よ讓るべきものにも侍らず住棲きまでに荒にあれなば空行く雲に宿求めて雫もる陰木にも身をよせ苔深き石の上に旅寐をすとも何か苦しかるべき用なき黃金ハ石瓦よもひとしかるを受納むるやうやあるとて承引ず文太夫ハ熟くうち聞きてのたまふ處みな道理なればかへさひ申さむハ罪深く侍れどおのれが思ふと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ころとハ聊の異なり凡そ人の子の親に仕ふるハ自からしのわるべき道なれば人により淺さ深さの差てろあれ珍らしきふしもなく又褒べき筋にも侍ふずされど和漢古今よ孝子傳とて記し遺し語りもつたへ侍り又我國の古へにも孝子を褒てその門閭ゑ表旌すとかいふことのあるハ皆他の人を羨ませ見習とせむとの事とぞ覺ゆるされば聖人も子路の牛を受しをほめ賜ひて子貢の金をうけざるにハ遙かに優れり今より後子路にならひて水に溺るゝ者を救ふ人多からむとのたまひしとの尼君ハこの金うけたまふを心よしと思ひ賜はずとも人の生命を助けて德づけむとおもふ人出こばこよなき功德にハさふふとずやと理りを盡してすゝめけるに尼

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

も黙止がたくや思ひけむいふがまゝに受け納めつ文太夫は限りなくよろこびつゝ軈て母をいたはりたすけて伴ひ出もとの岸より船に乗せて櫟野に歸りぬ尼はこの事をかたりなど毫かもせねど如何にしてか聞き傳へけむかの傳作といふ男かくと聞くよりねたさ口惜しさ堪へがたさに左ざま右ざま思ひ煩ひしがもと嫗を引あげしは我が力なり尼がいかばかり助けむと思ふともみづからの手ひとつにては爭でか爲し遂ぐべきされば悉皆とらむ事こそ難からめ何程か分ちとるは容易かるべきものをなど我が僻める心に思ひ定めて例の酒の勢ひをたのもし人にて尼の庵に來ぬこなたにはさる事の有るべしとも思ひ懸けねば何事ぞとて出迎へつるに傳作は賓の子に尻かけて上にもあがらず尼君よ櫟野の嫗はいかにかなりつる文太夫とかいへる子が迎へに來てつれ歸りしとかいふとの聞えしは眞實にやなどうら問ふを此方はしたに思ふ處ありてはいふとも知らずまた包むべきことゝしも思はねばありし儘に物語るをうち聞き果て傳作はひときは聲ひくゝしつゝ彼文太夫は土地にならびなき富裕の者にてはや此世にはあらじと思ひなりしを救ひ助けられて連れ歸れる悦びに黄金あまた持て來たるよ云或る人の告つるも虚言にてあらじかし最初うづまく迅湍に流れきぬるを見とめて引きあげしはおのが所爲なれば報いの黄金のなかばを分ち與へられむは怪しうもあらじ若またそを辞み賜ふとならば櫟野にゆきて此事をかたらむ然らばおのれにも何程かの報いなからざらむや分ち與へらるゝか彼處にゆかむかくの答へ聞せられよといふ度に酒の香のさとかをり來ると唾の散り乱るゝとに面むくべうもあらず況て尼は斯う思ひ懸ぬことゞも罵りいふに驚かれてとみに應答すべくも覺えず固よりをしからぬ黄金なればとらせむは甚易けれど威しておしとらむと思はゞ惡き心いよ〳〵つのりぬべし如何にかせましと暫時うち案じ居しがきと思ひつくこと有りしかば臭さを忍びてやをら傳作のまへにゐざり出つ

（未完）

◎雜記

○婦人の選擧權

婦人に選擧權を與ふると否との議論は歐米に於てはいと盛んに行はるゝところにして記者もまた男女同權の説を唱ふるものなるが故に實際便利の上に於てこそ男女の分業はあれ理論上に於ては男子の爲し得べきほどの事をなどて女子の爲し得べからざるとやある男子にして選擧權を有すべき權利あれば

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女子なればとて之を有すべからずとの道理はあるべからずところは思へどもこは是れ歐米文明國の婦人に於て始めて之を云ふべく我が邦現今の婦人の有樣にては選擧權のことは扨て措ていまだ男子の羈絆をも脫すること能はず婦人自ら財産を左右するの力らもなければ之を所有するの權利をも有せざるの位置甚だ卑くして世の中に獨歩をさへなし能はざるほどの事なるに今劇かに選擧權などゝは思ひも寄らぬ事なりかし先づ匍匐ふことを學びて後に立つことを習ふべし立て後に歩むべし歩むことをよくしたらんには走るべし然る後にこそ躍ぶべけれとは自から進化の順序あることを譬へたる緣眼兒の語なるが女子の改進にもまた自から順序ありて之を乱る事あるべからず且つそれ權利あれば隨てまた義務を負ふことの重かるは當然の事なるを爭でか今の婦人にしてさる重き務に堪へ能はん今の時は尙はいまだ斯る權利を要むべきの時にあらざるなりさりとて我邦に於てもまた之を要望するの時機なくてやはあるべきさらば今英國女皇新聞の記者が草したる婦人の選擧權といへる論文を譯出して文明國に行はるゝ婦人論の有樣如何を示さんと欲するなり即ち左のごとし

今度新たに選ばれたる國會下議院の議員中婦人に選擧權を與ふるの說を唱ふるもの三百名に下らざるべしとの報道は多くの人々を驚かしめしことならん婦人に選擧權を與ふるの議論が政治社會に起りたるは僅かに數年前よりの事なるが時論の鏡なりと聞えたるポンチ新聞(戲畵新聞)はその紙上に「醜女の妄進」と題して見るも忌はしく胸わるかるまでに醜き婦人等がジョン、ブル氏の立切り居れる戶を强て押開き進み入らんとなせる狀の戲畵を以て當時を嘲弄なしたる事ありしがその頃より婦人改進の度は迅速く進み行て今は學校會或は後見人會の會員を選び出すことを得るのみならず婦人にてもろの會員に選ばれ遂に役員とあるを得るの地位に達しよくろの位置を保ちて世人に滿足を與へたる事ども少なからざるなり扨てまた現今に至りては設立の最も古きオクスフォルドおよびカムブリッヂの兩大學校に於てもいまだ學位の榮譽をこそ與へね婦人にてもろの試驗を受ることを許し他の諸大學校にては男子と同等の權利を與へて婦人にも學位を授與なせり
婦人に醫學者たる榮位を與ふる事もまた永き年月の間拒まれたる事なりしが現今に至り倫敦の古き専門學校などにてこそいまだ婦人にして内外科醫學者或は製藥學者たることを免さゞれ倫敦大學校およびダブリンなる兩所の試驗所等その他の試

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

驗所にてハこの榮位を授與するところ少なからざるなり
詩人なるテニソン卿が嘗て人類の進歩せる狀に感じて作りたる詩の中よ

やめ疑ひろ行く水の　時うつり行きうつせミの
世を重ぬるに隨ひて　人の望ミハ彌ませり
猛き男のきもむかふ　こゝろもやがてあら玉の
月日とゝもに移りゆき　開けて廣くなれるなり

とあるがごとく女權擴張の事に就て男の心も現世紀の間にいたく廣くなり行きて尙は益々開けゆく事疑ひなかるべし婦人に政權を與へ立法官を選擧せるの權利をその手に許したらんにハ婦人同士相結びて各政黨の中或る一方にのみ集るべしといふ妄信ハ今ハはや消え失せて婦人に選擧權を與ふべしとハ改進黨中の重立たる人々の首唱に出たるに相違なきも近ごろに至りてハ保守黨に於ても改進黨に優りて盛んにこの說を唱へ現に先ごろ開きたる萬國婦人選擧權要望會の會議にてリデヤ、ベッカー孃ハその時までに國會議員に選ばれありし三百五人の保守黨と友誼を結ばん事を要めたるよその中より百六十三人の同意者を得殊に內閣員の股肱たる人々多く同孃の發議を贊成したりといふ(以下次號)

毛髮の事(前號の續き)

扨てまたアビシニヤにてハ男も女も束髮したる儘にて帽子を冠ると更らになけれどもこの人種の毛ハ餘り短くもなくまた黑奴人種の毛のごとく縮りても居らず或ハ歐洲人のごとく軟かにもあらず恰も中庸を得たるの毛なるがゆゑに帽子の代りとなさんが爲め如何なる風に束ぬるも自由自在なり
數年前に兎の毛を試驗したるものありしよその力ハ人類の毛と略同じかりしといへりまた野猪の毛ハ物の重量を保つ事人類の毛よりも四倍の力ふありて凡そ一インチ(凡そ八分)の長さなる毛にて千六百ゲレイン(凡そ二百七十六匁)の重さを保ちその長さ凡ろ二分ばかり延長せり馬の毛ハ餘り彈力あらずといへり
風のある天氣にハ毛髮燥きて軟柔ならずこれ元來毛の質ハ動物質と鹽類と包合して成り立ち濕氣を吸ひ取るの性質あるものなれども風に吹かるゝときハ蒸發氣の量を增すがゆゑに斯くハ乾燥するよ至るなり化學者ハ驗濕器といひて濕氣の度を許る器械を用ふることとなるが人の毛の脂肪を去りたるときハ即ちこの驗濕器の代用を爲せるものにて我々の頭に頂く毛ハ父母より與へられたる驗濕氣なり(未完)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○西洋禮式一斑(第二十二號の續き)

(會話の續き)會話中に傳記などを咄さんとするときハ餘り長からず少し戯言を交へて能辨に新らしきことを咄すべし牽強たることハゆめ〳〵咄す事あるべからず

會話中最も謹むべきことハ誹謗に渉ることなりと心得決して人を誹謗る事あるべからず

貴婦人と談話をなすに當りレデーとかまた男ならばマイ、ロールドとかの尊稱を餘り度々用ふべからずされども談話中適當の場所を見計らひ男ならばマイ、グレースと女ならばマダームといふ事を交ふるハ妨げなし

貴族に對ひてハ時々マイ、ロールドといふ事あれどもろの夫人に對ひてハ矢張りマダームといふべしされども通常ハ貴族およびろの夫人に對ひても只の貴人と同樣に咄すも妨げはあらざるなり

○反古曝

歌舞伎の始　慶長十二年に江戸において出雲のおくにといふ女はじめて歌舞伎を興行せり(門田耕夫氏よりの報)

芝居の始　寛永元年江戸中橋に於て猿若勘三郎といふものはじめて芝居を興行せり同九年禰宜町にうつる今の人形町邊といふ慶安四年堺町にうつるまた弘化年中に今の猿若町にうつりて次第に繁昌せし後に諸方へ散座せしなり(門田耕夫氏よりの報に係る)

芝居の名稱　芝居といふ稱へハ見物人の居るところをいひしが終に演劇の名となれるなり老人雜話に觀世能のことをいへる條に張良を二度芝居より所望しければ云々とありまた貞丈雜記に芝居とハ勸進能または田樂その外見物のところにて芝原に座して見物するゆゑ芝居といふなりなどいへりこれハ稱呼の轉りしものならん今時ハ歌舞伎劇場をさして一般に芝居といふことになりたり(同上)

牛乳搾取の創め　牛の乳を搾り取るもとの起源ハ今を距る事千二百餘年前孝德天皇の御宇和藥使主福常牛の乳を取りて奉つるよはじまりその後和銅貞觀仁和等の年間に四十餘州より貢進せしめたることありろの後遙かに降りて德川家齊公のとき雉子橋厩の中に白牛を養ひその酪を取らしめられたることありしが近年に至りてハ文久三年前田留吉といへるもの橫濱に於てこの業をひらきまた明治三年よ至り東京にうつりてこの業を營みたるより世の需用も大に增殖し遂に今日に至りていと盛んよありたり(舍友某氏の報に係る)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎新作物語

巣守の妻　第六回　　春のや主人稿

越野はおさなきより漢書を學びぬ、賢き父母の教育を受けて女の守るべき道をも知りぬ、浮たることゝては夢にだも知らず、未通女たりし頃は慧敏淑貞、夫に伴ふてのちは恭謙を宗とし、敢てその賢をしめさゞりしが、(性來快活なる性質なるを、斯樣に儒敎をもて壓へたりしことゆゑ) 夫が亡人の數に入りて、おのれが戶主の樣になりたる後は、やう〳〵本性の意地もあらはれ、世にいふ負ぬ氣の張强く、苟にも兎や角うと指さゝるゝをば、無上の口惜しきことに思へば、平生新作にも意見をしらしめ、家庭の訓誡には怠らざりしに、無殘や「血氣」といふ惡魔に誘はれ、現在の獨兒が…我が兒の新作が不所存にも、恥とも汚辱とも道ふに斷えたる、德義の罪人となりけるをば、不思議に聽しりては身も世もあられず、我が兒の可愛さも打忘れて、掴もつきたき程、打腹立しが、だん〳〵ことの筋を聽ただせば、流石にその間に有理もありて、世の淫佚なる若き同士の、たわけき行爲とは違ふに似たれど、さりとて斯う思ふは我身の最負眼、他人は舌を吐きて嘲り笑はん、まことに悔しき事してくれしト一度は胸のわたり裂かるゝやうに、獨り肚の中に打歎きしかど、扨やう〳〵に思ひ返へして、已にその事を瀧口にも知られて、斯く公然になりたる限りは、如何に嚙まむやうに叱ればとて、空しく恥の光を增すやうなもの、是が由緒の有乙女にあらずば、窃に手切金と云物を與せて、斷然緣を斷つも世の習例、さまでに道に背く沙汰でもなけれど、情ないはあの娘が、生中結髮の蘆田の女、それも父母でもあると歟、邪見な餘所の親に養はれて、孤兒同樣な憫然な境界、それを情なう振棄たト世間の口の端に新作が…貞女は兩夫に見えずトは、漢土の賢人の尊い訓誡…風說に聞く所が眞實なら、あの「民」とやらは貞良い性質、その元をいへば疵の無い玉、それに疵つけたは「新」の過失、今更ら緣を斷ッて大坂へ戻せば、二度の嫁入をト勸むるも同前、訓誡に背けよト我手をおろして…嗚呼その樣な非道な事、どうして…どうして爲られうぞ人の身で、さりとてあのやうな卑しい者を、子守軟下女のやうなあの娘を」ト越野は彼の話を聞たる當座は、種々にその心を苦しめしが、竟には儒敎主義が勝を占めけん、倅におのが意見嚴格に示して、「過たるは追ふ可らず、既往はとがめず、阿新も將來を謹みたまへ、民は引取て嫁とすべし、但し洋行の後の事にせん、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

それたゞ人の口を避んが爲のみ、阿新が居らずなりて後のことならば、おのづと目にも立じ、人もいはじ、心得たまふ歟」と六のしういふても、自然と恩愛の溢るゝ言の葉、平生より母親には恐れを抱きて、兎角にお辭義勝の温良き新作、おぼえず涙含みて「有難し」といふのみ、さきには大阪にてお民と約して、母に請願して引取むといひしが、それたゞろの折の眞情にて、東方へ着て見れバ氣丈な母親、むかし「駄々」をいふて叱られしと抔、俄かに連感にて腦髓に浮びてさらでも我が心が畏まるを爭でか「彼の一事」をいひ出し得べき、只管胸に秘して、氣を痛めてありしが、本來齢には似ず淡々しき質とて、月日のやう〳〵に經つに隨ひ、いつ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

しかあまり深う心にもつけず、竟には忘れたりしやうになりぬ、扨も薄情と罵しるもあらんが、これらは冷薄といはんよりは、豪放活潑なる意氣に駆れて、些事には眼を得とめぬ質ともいふべし、されば一旦は忘れたりとも、再びその人を目前に見れば、又もやその以前の眞情は沸いで前にも彌増りて熱そることあり、現に新作は母よりして、お民の上京してある事を打聴き、且つ羞且つ駭き且つ愁ひて、愁然やゝしばらく物をも得いはず、「洋行〳〵」ト叫びたりし、最初の勢ひは跡形ならなりて、只管母の所置は如何であらう、ト胸に音をさせて俯きてありじに、圖らず上首尾なる慈愛の宣告、肚に小躍してうち喜び、又もや元の如く勇みたちて、直ちに旅准備に掛りしのぞ、更に悵然とうち委靡れて、次第にのしま立に近づくにつれて、まそ〳〵鬱陶勝に日を惜しむは、それもその筈天地に二人となき母に別れ…別れて程經たる思ふ人を、（我身の後の日の妻と定れど）一度も相見ずして旅路へ行く身、これらは餘所よりして口を挿みて、道理ぞトいはむもなか〳〵なりや、斯る氷歴のあることゝも知ゑ、如何に新橋の一時の離別も、「阿新」の身に取ていつらかりけん、母も大方はその心を推して、ます〳〵娶ることに心を定めつ、彼夜は合乗にて車を走らせ、一旦我が家へ歸りし後、お民は人をそろへて氷屋に歸らせ、翌日なら ためて氷屋におもむき、生來吐かぬ僞言もそこしは交へて、成るべく体裁よく履歴をこしらへ、一旦彼の乙女を引取しが、第一氣にのゝるは大坂のことなり、養母が六かしう捻はせぬか、をのしう言ひがゝりを持出はせずや、ト内々このことには屈宅せしが、恰ど知合なる小間物商がこの度大坂へ下るこそ幸ひ、彼商は斯ることに物なれたれば、ト悉しく同人に理由を語りて、何卒この事は耳立ぬやう極めて穩便にトくれ〴〵も頼みて、金子も若干歟持せて遣りつ、

かくて何となう客人の体にて、お民を小石川の住居に居らしめ、下婢には「三ッに折りて疊としもの」與らせて、漠然「お客」なりといひえふすなるべし、越野はほとり近くお民を置きて、更にその容貌擧動、ならびにその氣だてを覗がひ見るに、貌ばせこゝろばへは憎むべき廉なく、まことに愛くるしう見えながらも、惜しやその言葉が鄙びたるに、すべてのとり做が下婢めきて「へイ」と答へをする容躰は更らなり、妄りにあるまじき聲をそなちて、さもなきことをさへにほめ罵しるなど、越野は見聞くたびに氣色をわるくし、眉顰みがちに日をおくりぬ、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎家政要報

○家事會計の心得　總て金錢のことは儉約にすべきと勿論なりといへどもまた吝嗇なるべからず一文を守るの心は二文の事を思てぞといひまた逢ふよりも抑留ること多きものは貧賤に向ふといふ古き俚諺もありて聊かの事に儉約して却て大なる損毛を來すこと少なからず船の底を塗るタールといへるものあり或る船主が僅かなるタールの代價を嗇みたるがため大いなる蒸氣船を失ひたる咄しもありまた樽の栓を嗇みたるが爲めに樽の中にあるものを皆失ひたる咄しあり常に心得あるべき事なりかし

家事向きの取締りよく行き屆きたる家の主婦たるものは甚ざ寛裕なる心持のあるものなれどもさりとてまた儉約の心得なかるべからず金錢には限りありて入用には限りなきものなるがゆゑに主婦の心得よき時はこの限りなき入用を節約して一家の幸福を保つ事を得べきなり總て家內の小經濟を儉約にする事は男子は甚だ不得手なるがゆゑにその家の主婦たるもの常に注意してその任に當るべし僅かに一寸か二寸の糸の切れ端を捨る事惜きとてその結ばれを解くが爲めに貴き時を十分も二十分も費やすものありまた家內にはマッチは日用の品なるに之を買入るゝ事を嗇しみ急に入用の事ある時に臨み一本か二本のマッチなきが爲めに大なる損毛を來す事あるなどこれ一文に賢しくして壹圓の事に愚かなりといふべしまた無暗に利を得んと思ふときは左ほど入用にもあらぬものをたゞ直段安ければとて多く買ひ入るゝ事ありこれ等は「不用の買物は幾らの直段よりも貴し」といふ諺を忘れたるなり（以下次號）

○鷄卵の貯蓄法　鷄卵を貯へをくには鬢附油を指にてよく塗り附け箱の中に貯ふべしといふ事を聞き居たるが今英國の婦人雜誌に數年間貯へ置く法といふがありその法はまづ水を沸騰せしめて（凡そ二三升の水）生石灰一斤の上に注ぎ掛けその儘にして一日間を經たる後凡ろ鷄卵百ばかりを容るゝ備前燒のごとき瓶（內部に藥り掛り居て空氣の漏れ入らざるもの）に鷄卵を詰め込みその上より前日の石灰水を注ぎ掛け鷄卵をよく蔽ふまでになる可成は陶器の蓋をなしよく〳〵目張して之を土庭に置くべし決して床の上に置くべからずされば數年間の後にても更らに變る事なしとあり

○白米小賣相場　九月十日より一等米一斗二升二合二等一斗三升三等一斗三升五合四等一斗四升六合五等一斗五升六合

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎御伽草

○鑒定ハ違ハず

愚にて物の道理のわかりにくきやうの人ある代言人の許へ來て訴訟の鑒定を請ひけり代言人ハ書類を見てこハ必ず勝つべき權理ありと鑒定ぬといひしかば依頼人ハ悅びて直に此人を代言人にて訴へ出ぬ數度の審問を歷し後敗訴となりしを遺憾と思ひて依頼人ハ種々代言人に約束の違ひし事を詰りとへど代言人ハ落つきたる顏にてさる憤りハ必ず勝つべしとの鑑定ハ違ハず只被告が屈伏せぬと法官が我言を道理ありと聞れぬ迄の事なりといひしに依頼人も成程と頷きぬ

○おもだかとくわゐと

田川に足を洗ひ居たる男が小學校もどりの子供を呼留め坊ハ那處に白く花のさいてゐる艸の名を知て居るかと問へば生徒ハあれを知らぬ者が有るものか澤瀉さといへば農夫ハ承知せずあれハ烏芋さといへば生徒もまた承知せず夫なら烏芋で無けたら此鍬を坊にやらふから澤瀉とやらで無くハ其石盤を私によこせと約束し彼艸をぬいて水に洗ひ生徒ゑ見せ勝たくといへば生徒ハ熟く視てをぢさむハ根を知て頭を知らず私ハ頭を知て根を知らず夫だから此かゝハ勝負なしだ併しおかげで知りました何を〳〵此草の帽子の名ハ澤瀉また靴の名ハ烏芋といふ事を知りました

○數學問題

八人の女工一日十四時つゝ十二日間働き四拾圓三十二錢の賃銀を得たり今この割合にて十八人の女工七日間十二時つゝ働くときハ幾何を得べきや

〔記者曰す前號數學問題の答式を出すべきなれどもいつも遠國より寄せらるゝ答式あるも掲載の間に逢ぬ事も多かるに付以後ハ問題を掲げしより第三回目の紙上に掲ぐへし即ち前號の答ハ此次號に出すべし〕

◎寄書

歌舞伎の起源

東京　杉園生漫稿

歌舞伎の起源ハ羅山文集及ひ野槌などに說あり醒齋が骨董集にも其古圖を摸出しなほ委しき考證ありてみな出雲國の神子れくにといふもの念佛踊に歌舞をおもしろく取なしつるよりもてはやされて漸々五條の橋詰三條の繩手などゑ舞臺を搆造しさま〳〵に舞ひ踊り傾城たれかれらの風をうけつぎて世に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

盛になりこし趣にはもふめり然るに室町氏の頃曲舞といふものあるかの猿樂の一致にして白拍子といふものに相伯仲せるとみな知るところあるをこの歌舞伎といふものも恐らくはその頃より漸次猿樂曲舞折中變態して蓋し胚胎を來たせるにはあらざるか看聞御記、永享四年十一月十日の條に、鳥羽に女猿樂勸進自昨日始、云々隆富朝臣重賢以下見物に行歸參語、美女五人、歌舞殊勝、言語道斷見物也、拍子、咲などは男也、女共は如遊君音聲殊勝、觀世なとにも不劣、猿樂之体神妙也、棧敷六十三間、雜人充滿、不知數群集、云々、自西國方上洛、云々」と見えまた近頃出たる後法興院殿(近衛政家公)記を見るに寛正七年二月廿三日の條に傳聞今日於武家有女猿樂四五日前於下邊八條有勸進言語道斷奇妙之間今日武家被見物云々、彼等近日自越前上洛云々、大希代事」また壬二月十八日の條にも是日於院御所有女猿樂新大納言雅親卿申沙汰云々」(以下次號)

◯婦智を進むるの策(前號の續)　遠江　村松はな

故に妾等の當に誓て黽勉勵精すべきところは眞正の智識を開達し優美の婦德を涵養するにあり決して彼の一時流行熱に浮されてたゞ外面を幅飾し腦中無一物にして意氣揚々自得するがごときをいふにあらざるなり之れ妾が全國の姉妹と共に深く儆誡すべきところあり如斯ものはいまだ新に就かざるに既に舊を脱し徒らに歐米の短所を學び得て吾邦特有の貞操淑德を抛擲しその極終に小は一身一家を誤り大は天下國家を害するに至るや必せり若しそれ斯のごときは其罪果して誰にか歸せん豈に恐れざるべけんや然らば則ち智德を開養し妾等の位置品格を高尙ならしむるには如何して可ならんか曰く庠序に入り薫陶を受くるも可なり或は旅行をなすも可なり或は廣く交際を爲すも亦可なりその他種々の方法あるべしと雖も如何よせん全國姉妹各々その狀態を異にするを以て生計の度に高低あり住居に都鄙の差別ありその他貴賤尊卑の區別ありて理論實際に行はれがたく好し行なるゝとも一小局部に偏倚するは今日我か邦の狀態なり故に妾は他に向つて一策を設けんと欲すなりその策如何といふに智識を交換する是れあり

(以下次號)

○野邊虫　信乃　石和長麿

ふりそてゝ過るもつらし鈴むしの聲たえまなき秋の篠原

○虎列剌　北總　渡貫香雲女史

流行惡疫早於車、患者如山日々加、別有世間害人者、大傾城國小傾家、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

貴女至寶 **大全活用姫鏡**

正價金五拾錢ノ所御披露ノ為メ本日ヨリ三拾日間非常特別廉價金三拾錢ニテ發賣ス●郵券代用ハ一割增ヲ敬請ス●郵送料十二錢運遞送料六錢●既ニ製本出來ス勉メヨ勉メ女子諸君學ベヨ學ベ婦人諸子○今此書ハ御身等ノ○為メヲ思ヒテ故ラニ○心ヲ籠メテカニカクト○綴リ集メシ者ナレバ○必ズ繙キ錫フ可キ○世ニモ得難キ書ナルゾ○先ヅ其內ノ概略ノ○廉々擧ゲテ數フレバ○萬ツ衣服ノ縫裁チニ○禮義作法奥底ニ○身ヲ修ムベキ教ヘ草○言葉ノ使ヒ用ヒ方○歌ノ詠シ方綴リ方○茶ノ湯活花次ニ亦○折物包物ノシカ○紐ノ組方身ノ化粧○琴ニ三味線夫々ニ○合奏ツル諸歌ニ○歌カルタニ具ホ、イ○日用四季ノ文ノ範○婚姻儀式世帶方○料理ノ方朝ニ夕ニ○覺ヘ置ク可キ諸妙術○飲食物ノ貯蓄方新發明ノ染方モ○急病即座ニ療ズヘキ○藥ノ用方迄モ○總テ御身等ノ常日頃○心得置ク可キ物事ヲ○三百十五又餘條○細大漏ラス所ナク○尚ホ其上ニ楷書ヲモ○假名ヲモ附シ書ナレバ○實ニ此書ハ御身等ノ○光リヲ添ル玉ナルゾ○實ヲ生ムノ田ゾ畑ゾ○讀メヨ讀メ讀メ此書ヲ

大賣捌所 東京々橋區三拾間堀一丁目 九春堂敬白

和漢古今名家詩文 **圭玷新評** 第五十三集

八月廿日發兌 定價金五錢

右ハ元來邦人ノ詩文ヲ刪評シタルモノヲ掲ケ來リシガ本集以下邦人ハ勿論文ハ韓柳歐蘇詩ハ李杜韓白等漢土ノ名家ト雖モ苟モ瑕瑾アルモノハ嚴正ヲ加ヘ大ニ詩文講究ノ便ヲ開カントス且集中ニ文藝雜話典故釋疑西洋英傑傳課題詩文等諸篇ヲ設ケ頗ル修正ヲ加ヘタレハ益購讀アランヿヲ希望ス

發行所 東京神田區雉子町 團々社

大取次所 大坂備後町四丁目 此村彥助

○女子英學會ハ速成實用ヲ主トシ女子ニ必要ナル英學ヲ懇切ニ教授ス○生徒追々進歩ニ付益々規則ヲ改良シ更ニ新入ヲ募ル有志ノ婦女速ニ來會アレ○外國人ニ關係アル商家職工等ノ婦女ニテ業務ニ關シタル會話其他ヲ學バントスル人又ハ年長シテ幼年者ト共ニ學ブヲ恥ル人等ニハ別ニ簡易ナル教授法アリ○月謝五十錢和漢學兼修ハ今七十錢

京橋區佐柄木町二番地 **女子英學會**

小生義去る六月下旬より上州地方二三の溫泉に入浴罷在候處一昨十三日歸京仕り留守中御尋問被下候辱知諸君へも早速拜趨鳴謝可致心得にハ候得共不取敢紙上を以て御禮申上候

松本義弘

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵稅壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必す代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手にて一割增し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み共爲替券と本舍へ御送附可被下候 但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 **績文舍**

持主兼印刷人 松本義弘

編輯人 初鹿野錦五郎

女學叢誌大賣捌

東京芝區愛宕町一丁目三番地 修正堂
同 神田區淡路町 巖々堂
同 神田區佐柄町廿一番地 東游堂
同 日本橋區新葭町 良明堂
同 牛込區肴町十七番地 活神堂
同 芝區愛宕下町二丁目 高槻堂
同 蠣殼町貳丁目 信文堂
同 本鄉區本鄉元富士町二番地 盛春堂關田
同 同 本鄉春木町貳丁目 解明堂
同 牛込區牛込樂神町 積善堂
大坂府備後町四丁目 岡嶋支店
千葉縣千葉本町一丁目 立興舍
山梨縣甲斐常盤町 內藤傳右工門
藝州廣島大手町一丁目 早速社
江州彥根西內大工町 新々堂
陸前國仙台大町四丁目 木村文助

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY